

心豊かでよりよく生きようとする子供を育成する道徳教育の在り方
～「道徳的実践」につなげる道徳科指導の工夫を通して～



【校訓】

敬天愛人

奮励努力

天を敬い 礼儀正しくあれ
人を愛し 心やさしくあれ
(西郷南洲翁の遺訓)

しっかりと学び かしこくあれ
うんと鍛えて たくましくあれ
(東郷平八郎元帥の遺訓)

令和4年11月15日

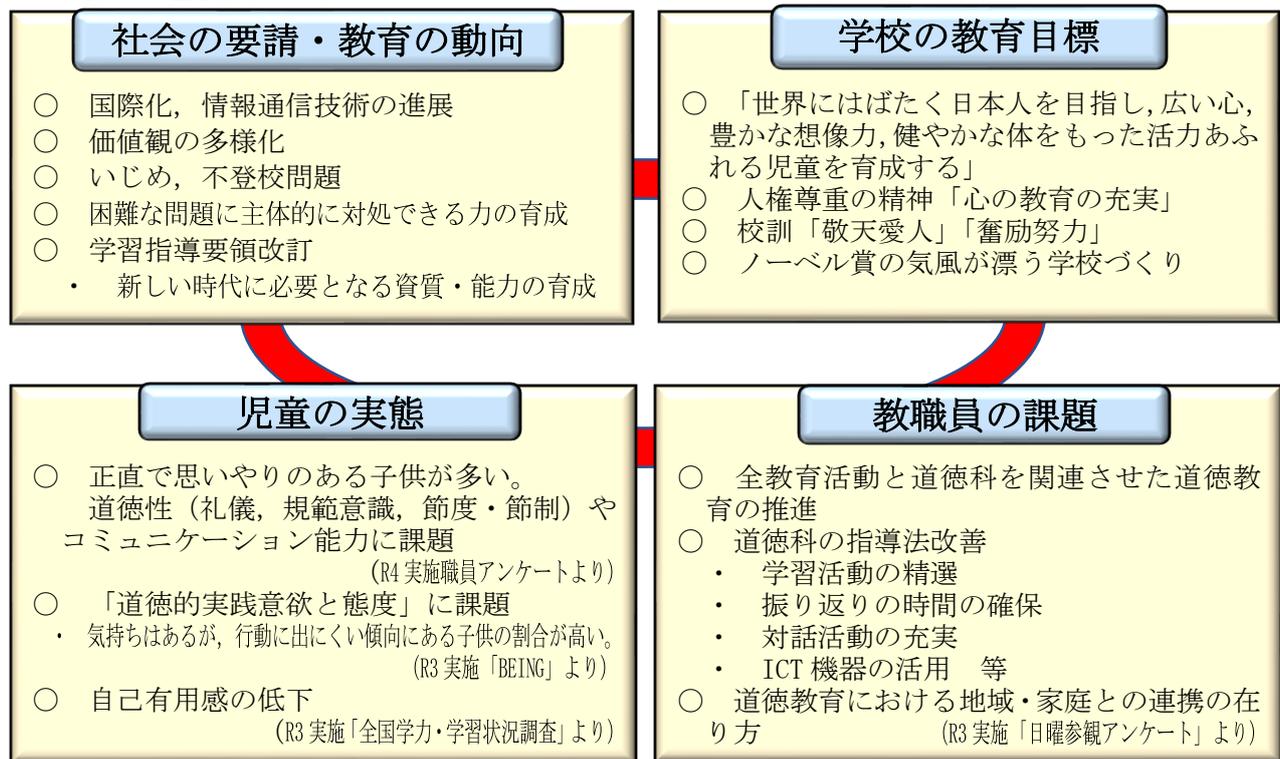
鹿児島市立大龍小学校

I 研究の概要

1 研究主題

心豊かでよりよく生きようとする子供を育成する道徳教育の在り方
～「道徳的実践」につなげる道徳科指導の工夫を通して～

2 研究主題設定の理由



3 研究主題に関する基本的な考え方

(1) 心豊かな子供とは

困っている人がいれば優しく声をかけたり，ボランティア活動等，人の役に立つことを進んで行ったりするなどの「豊かな心」をもち，家庭，学校，その他の社会における具体的な生活の中に生かすことができる子供。

(2) よりよく生きようとする子供とは

道徳科を要とした全教育活動を通して獲得した新しい見方・考え方を生かしながら，道徳的価値のよさや意義を，日常生活の様々な場面で想起し，自分の生き方や状況を支えるよりよい価値を選択し，よりよく生きようという気持ちをもつことができる子供。

(3) 道徳科における目指す子供の姿

- ① 道徳的価値について理解することができる子供
- ② 人間の心の弱さ等の人間理解ができる子供
- ③ 自分とは違う見方・感じ方・考え方に共感する等の他者理解ができる子供
- ④ 自らを振り返り，自分との関わりで道徳的価値をとらえることができる子供
- ⑤ 道徳的価値を自分なりに発展させていくための思いや課題に気付くことができる子供

4 研究の仮説

【仮説1】

道徳科の授業において、対話活動や体験的活動の充実などの指導方法の工夫を図れば、ねらいとする道徳的価値のよさを理解し、自己の生き方についての考えを深めることができるであろう。

【仮説2】

各教科等との関連を密にした道徳教育テーマ学習を展開し、家庭、地域との多様な連携を図った道徳教育を推進していけば、子供たちの日常生活の中で生きて働く道徳性を育むことができるであろう。

5 研究の視点



(視点1) 道徳科の指導法の工夫

- (1) 指導過程の工夫
- (2) 対話活動の工夫
- (3) 体験的活動の工夫
- (4) 評価の工夫
- (5) 教師の指導力向上のための取組



心豊かでよりよく生きようとする子供の育成

(視点2) 道徳教育テーマ学習の推進

- (1) 重点内容項目に応じた学期別道徳教育テーマ学習構想図の作成・活用
- (2) 道徳的環境の充実



(視点3) 家庭・地域との連携

- (1) 家庭や地域との連携の充実
- (2) 家庭や地域への情報発信

道徳の徳題	月 日 ()
<上学年>	大龍小 年 組 番
名前 ()	
★こんなときあなたならどうする??★	
ある日、友達が学校に持ってきてはいけないマンガ本を もってきていました。それをたまたま見かけたあなたは友達から、「先生にはひみつにしているね。お願い。」と言われました。さて、あなたはどうしますか。	
自分だったら・・・	保護者

Ⅱ 研究の実際

1 道徳科の指導法の工夫（視点1）

(1) 指導過程の工夫

① ドラゴンスピリッツ（テーマ学習構想図：児童用）の活用

子供たちに自己を振り返らせ、ねらいとする道徳的価値について考える視点を明確にもたせたり、道徳科で学んだことを今後の学校生活の中で実践しようという意欲をもたせたりするために、児童用テーマ学習構想図（ドラゴンスピリッツ）を授業の導入や終末で活用した。



② 導入のスリム化

中心となる活動や振り返りの時間を確保するために、導入でドラゴンスピリッツを活用し、ねらいとする道徳的価値の焦点化を図ったり、教材を読むことから始め、教材の問題場面を子供たちの実態と関連付けることによって、子供たちの意識をねらいとする道徳的価値に方向付けたりした。

③ 自己肯定感を高める終末の工夫

自己を見つめ直し、発展させていくことへの希望がもてるような終末にするために、善い行いができていた時の写真を提示したり、内容項目に関わる児童作文や日記等を紹介したりして、自己肯定感を高める工夫をした。

(2) 対話活動の工夫

① 思考ツール、ネームプレートの活用（考える道徳）

自分の考えをしっかりとらせ、それを表現させるために、問いに対して、自分の立場を示すことができる発問を設定した。また、思考ツールやネームプレートを活用することで、自分自身の道徳的価値観に支えられた理由や根拠を述べたくなったり、聞きたくなったりする状況が必然と生まれてくるような場を設定した。



② 目的をもった対話活動（議論する道徳）

道徳的価値等について多面的・多角的に考えさせるために、自分の考えを友達と交流する場を設定した。

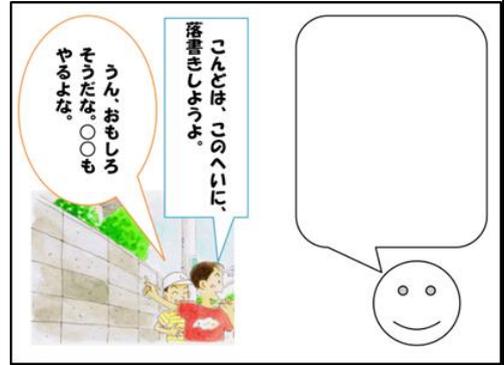
学級の実態に応じ、ペアや少人数グループでの話合いや席を立って自由に自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりする活動（スタンディングミーティング）、コミュニティーボールを用いた円座での対話活動（P4C）を取り入れた。



(3) 体験的活動の工夫

① モラルスキルトレーニング（疑似場面のロールプレイング）の実施

本校の課題となっている道徳的実践意欲と態度を育成するために、展開後段で教材の中の問題場面と類似した場面の対応について考える場を設定した。登場人物の生き方から学んだことや友達と考えを交流し合ったことで新たに加わった道徳的価値の見方や考え方等をもとに、子供たちが多面的・多角的に考えたり、今後の生き方について深く考えたりできるようにした。また、日常生活で実際に起こりうるような場面について考えることで、道徳的実践につながることができるのではないかと考えた。



(4) 評価の工夫

① ICT 機器（ロイロノート）の活用による評価の効率化

これまでの学習の振り返りや教師の評価を行いやすくしたり、振り返りの時間を短縮したりするために、高学年を中心にロイロノートのアンケート機能等を活用して学習の振り返りを行わせた。道徳科の目標に明記された学習活動における子供の姿について見取ることができるように入力させる内容を工夫した。



(5) 教師の指導力向上のための取組

① みんなで授業づくり

教師全員が、道徳科授業づくりの理解を深め、主体的に研究授業に関わることができるようにするために、従来のような指導案検討ではなく、小グループ（低・中・高学年部）で、研究授業での教材、児童の実態、道徳的価値をもとに学習活動や発問を検討し、全体で発表し合う形をとった。



② 個人・学年部研修の充実

教師全員が主体的に研究内容の検証に関わることができるようにするために、学年でリレー形式の研究内容の検証授業（同一教材や同一内容項目の授業）を行い、成果や課題をまとめ、実践発表を行った。

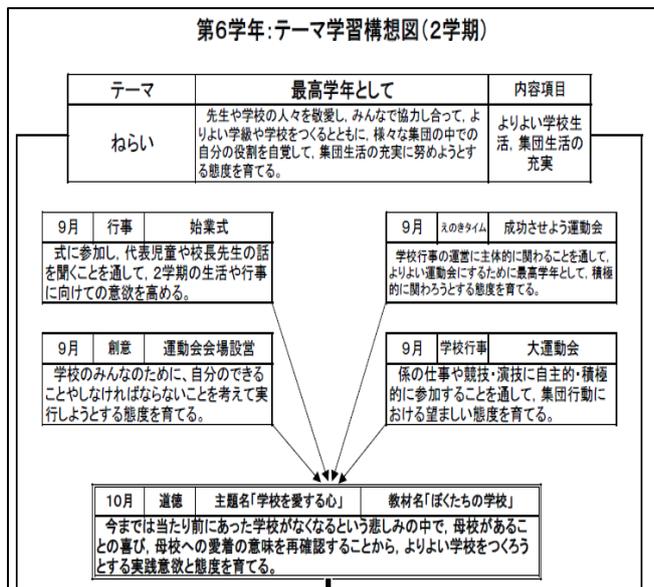
鹿嶋市立大龍小学校 研修係	
道徳科ルー検証授業シート	
()年()組 指導者()	
以下の項目に○印と記入をお願いします。	
1. 教材名	
2. 内容項目	
3. ねらい	
4. 検証内容 ※テーマ研修との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入の時間短縮 ・ 対話活動 ・ 体験的な活動 ・ モラルスキルトレーニング ・ 振り返り ・ ドラゴンスピリッツの活用 ・ その他 ()
5. 検証内容の 具体(工夫した ところ)	

2 道徳教育テーマ学習の推進（視点2）

(1) 重点内容項目に応じた学期別道徳教育テーマ学習構想図の作成

① 学期ごとの実効性のある「テーマ学習構想図」（教師用）の作成

教師が各教科等の道徳教育との関連を視野に入れ、重点内容項目に対して意図的・計画的に指導できるようにするために、指導内容の配列を工夫したり、重点指導内容項目について各学期2回取り扱うよう組み込んだりする等、重点内容項目と関連する他教科等の時間を図式化し、実効性のある別葉を学期ごとに作成した。



(2) 道徳的環境の充実

① ドラゴンスピリッツ（児童用）の掲示

重点内容項目に対する子供たちの意識の継続・発展を図り、道徳教育に対する学びと実践をつなぐために、児童用テーマ学習構想図（ドラゴンスピリッツ）を学期ごとに作成した。道徳教育に関連した学校行事等の感想や写真、道徳科のワークシート等とともに教室前方に掲示した。



② 「道徳コーナー」の設置

子供たちに他の子供や保護者の考えをもとに道徳的価値について多面的・多角的に考えさせるために、校内の廊下や階段にある掲示板に「道徳コーナー」を設置し、月1回実施した「道徳の宿題」（次頁参照）を掲示した。



3 家庭・地域との連携（視点3）

(1) 家庭、地域との連携の充実

① 「道徳教育アンケート」の実施

児童・家庭・地域・職員の視点から本校児童の道徳面での実態を把握するために、道徳科の内容項目に応じたアンケート（児童，教師，保護者，地域）を実施し，分析した結果をもとに，学校・学年の重点内容項目を決定した。

② 道徳教育に関する研修会の実施

職員の指導力向上や家庭における道徳教育推進のために，夏季休業中に講師（NPO法人「ルネスかごしま」）を招聘して「傾聴」についての校内研修を行った。保護者にも参加を呼びかけた。

③ 親子で取り組む「道徳の宿題」の実施

家庭の道徳教育への関心を高め，子供に道徳的価値について多面的・多角的に考えさせるために，毎月25日を「道徳の日（ニコニコの日）」と設定し，その週の週末課題として，多様な考えが出ることが予想される問題場面について，親子で考えを記入し，話し合うことができる「道徳の宿題」を出した。

★こんなときあなたならどうする??★

あるひ、ともだちと がつこうから かえっていました。きょうは、おうちにかえたあと、あそびやくそくをしています。はやくかえろうと いそいでいると ともだちが とおってはいけないと いわれているみちを ゆびさしながら、「こっちのみちが、しんごうがなく、はやいよ。」といました。さて、あなたはどうしますか。
(1ねんせい、できる はんいで かいてください。)

じぶんだったら・・・

保護者



(2) 家庭、地域への情報発信

① 道徳だより「心のとびら」の発行

地域や家庭の道徳教育に対する関心を高め，学校と家庭・地域が連携した道徳教育の充実を図るために，「道徳の日」に道徳だより「心のとびら」を発行している。日常の道徳教育の取組をはじめ，学期ごとの重点指導項目等を紹介している。

② 道徳科の授業参観の実施

家庭や地域に道徳教育に対する理解を図るために，「かごしまの教育県民週間」に行われる日曜参観で道徳科の授業を全学級で公開した。授業後，授業の感想や「親子で道徳について話をしますか。」等のアンケートを実施し，保護者の意見を今後の道徳教育の取組に生かせるようにした。



心のとびら

No.2
令和4年7月20日



「道徳の時間」から「特別の教科道徳」へ

小学校では、平成30年度から「特別の教科 道徳」が全面実施となり、道徳教育の一環の充実が図られています。道徳の教科化が行われた背景には、次のような現代の課題について、子供たちに考えさせる機会が求められているためです。

- ① 深刻な社会問題の解決への対応を促すこと。
- ② 子供たちに自分の生き方、社会への関心を高めさせること。
- ③ 正義が一つではない様々な社会の問題について、互いに尊重し合いながら解決してほしい。
- ④ 情報通信技術の発達に伴う人間関係構築のあり方について学んでほしい。
- ⑤ かつてないスピードで変化する社会に、自らの力で対応して欲しい。

道徳科の授業は、道徳の教科化以前の「道徳の時間」の授業と大きく変わりました。

- ① 自分ごととして今までの以上に考え、話し合うことが増える。
- ② 答えが1つではない物事について、互いの意見を尊重し合う活動を通して、子供たち一人一人が自分自身の問題として捉え、向き合う場面が増える。
- ③ 子供たちを認め、励ますための評価を行う。（道徳科に特長しています）

保護者の皆様には、日々の生活の中で、お子さんご自身自身の考えを持っていることのおよきを感じさせたり、学校や家庭における道徳的な話題をもとに、お子さんと道徳的価値観などについて話し合う機会をもち、社会の中で他者と共によりよく生きていくために必要な道徳性について考えさせたりしていただけたらと思います。

＜道徳コーナー＞

本校の道徳教育研究の取組の一つとして、廊下や階段の掲示版に各学年の道徳コーナーを設け、毎月25日「道徳の日」に出している「道徳の宿題」を掲示しています。友達や保護者の考えから、様々な価値観や考え方が見られることや新たな道徳性の視点に気付いてもらうことを目的としています。

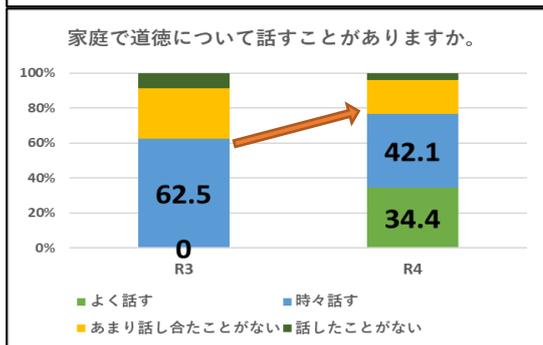
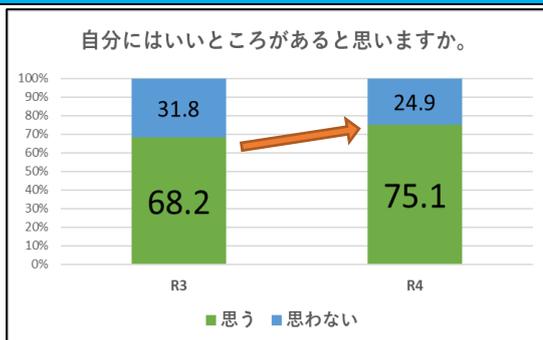
今後も、よりよいものになるよう工夫していきたいと思っております。来校した際は、ぜひご覧ください。



Ⅲ 研究の成果と課題

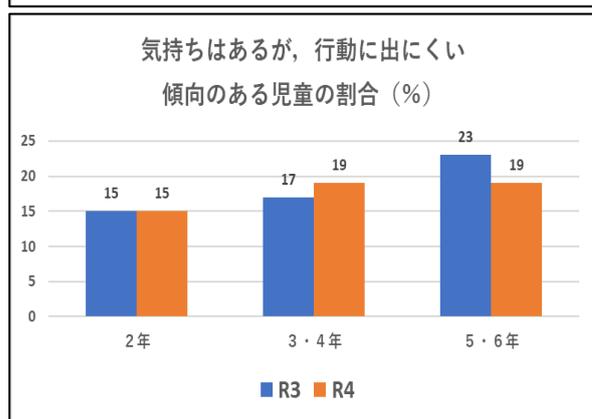
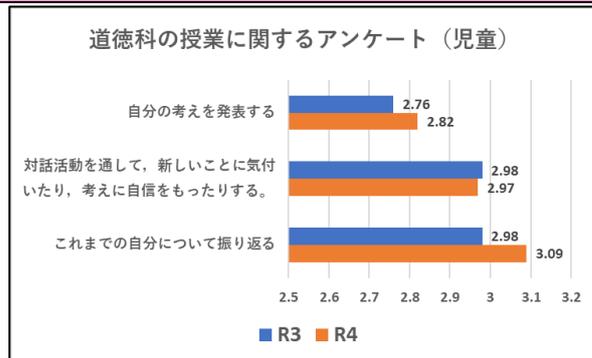
成 果

- 道徳教育テーマ学習構想図や行事等と関連させた年間指導計画を作成することで、本校の課題である内容項目の重点指導を図ることができ、他教科等との関連を意識した道徳教育を行うことができた。
- 「ドラゴンスピリッツ」を掲示し、活用することで、子供たちに重点内容項目について継続的に意識させながら指導することができた。
- 道徳科の授業の終末に、内容項目に関して実践してきた経験や相手にしてもらってうれしかった経験等について紹介したり、発表させたりすることで、自己有用感の高まりが見られた。
- モラルスキルトレーニングを実施することで、授業を通して新たに獲得した見方・考え方を生かした記述や発言が見られ、教師が今後の生き方に対する価値付けをすることができた。
- 「道徳だより」の発行や「道徳の宿題」の実施等で、家庭との連携を意図的に図ることにより、道徳教育に対する家庭（保護者）の意識の高まりが見られた。



課 題

- △ カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れ、道徳教育に地域住民や保護者に積極的に参加してもらおう等、道徳科と他教科等がより有機的な関連が図られるように指導計画の見直しが必要である。
- △ 道徳的実践意欲と態度を高め、道徳的実践につなげられるように、より効果的なモラルスキルトレーニングの在り方や、終末での「ドラゴンスピリッツ」の活用についても研究を深めていきたい。
- △ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、発問や対話活動の在り方等、より具体的な指導法について更に研究を深めていく必要がある。
- △ 道徳的実践意欲と態度の育成について、展開後段や終末において、夢や希望を考える活動や今後の行動や生き方について考える活動を積極的に取り入れていく必要がある。
- △ 考えを深めるための話合いの仕方や自分の意見を分かりやすく伝えるための表現力の向上を図っていく必要がある。



《引用・参考文献》

- 『小学校学習指導要領解説：特別の教科道徳編』 文部科学省 (2015)
- 『やってみよう！新しい道徳授業』 学研教育みらい (2014)
- 『新教科道徳はこうしたらおもしろい』 図書文化 (2015)
- 『「問題解決学習」と心理学的「体験学習」による新しい道徳授業』 図書文化 (2013)
- 『道徳の時代をつくる！』 教育出版 (2014)